

第3回希望が丘文化公園将来ビジョン検討懇話会 会議録（概要）

日時：平成27年10月30日（金）10:00～12:00

場所：滋賀県庁 北新館 5-F 会議室

出席委員：江島委員、神部委員（座長）、黒澤委員、辻田委員、深町委員、前山委員、
涌井委員

欠席委員：なし

【議事要旨】

議事

- （1）希望が丘文化公園将来ビジョンの策定に向けたこれまでの経過と今後の予定について
- （2）希望が丘文化公園将来ビジョン案について

（開会挨拶）

（事務局資料説明）

○委員

- ・「間伐」「間伐材」はスギやヒノキなどの人工林を育てる過程で使われる言葉なので、「適切な管理、森林・森林資源の有効活用による持続可能な森林管理」とした方が良いのではないかと。
- ・公園内に良い環境・景観がある中で、レンタサイクルの置き方や自転車の古さが目立ってしまい、改善の余地があるのではないかとという意見があったということを取組につなげてほしい。
- ・空間計画というのは回答にある場所ごとの色づけを求めているのではなく、ビジョンでまとめている機能をどの場でどのように発揮させるのかということを通認認識できるようにした方が良いのではないかとという趣旨。森であれば観察や木を切るなど、その場ごとのポテンシャルを活かすような取組を地図に落とし込むことで、機能が見えるようにしていくことが大事ではないかと。
- ・広大な自然林の育成とあるが、自然林は人が手をつけない木のことを指すので、希望が丘の歴史を踏まえると里山林とした方が良いのではないかと。
- ・指定管理制度の枠組みの中でとあるが、県の担当者や指定管理者が数年で変わると、築き上げてきた経験・ネットワークが切れてしまうので、何らかの形でそれらを引き継いでいく方法を検討すべきではないかと。
- ・希望が丘文化公園の文化というのは、貧栄養の中で希少種が分布したり、湧水やた

め池があるなどの自然環境や、京阪神のネットワークの良い場所にあるといった社会環境としての特徴が、実際の森林管理や資源利用、環境教育などの場で活かされ、根付いていく、ということと考えられる。この場の自然や文化を大事にした将来ビジョンが必要ではないか。

- ・目標として、利用者の満足度の割合を平成 26 年度の 85.1%から平成 52 年度に 95% 以上にするとしているが、26 年後にどのような状況となっているのか、95%にどのような意味があるのかがわからない。時代の変化もあることから、アンケートの取り方やどの部分で満足しているのかということの方が大事ではないか。

○事務局

- ・「間伐」や「自然林」といった表現を修正させていただく。
- ・レンタサイクルの活用や空間計画については、ビジョンを具体化する基本計画の中で検討していきたい。
- ・満足度については、事業参加者や施設利用者のアンケート集計によるもの。95%というのは希望が丘を利用するほとんどの方が事業や施設に満足している状況ということ想定しているが、どのようなことが利用者の満足につながっていくのかということを含めて、目標に向けた取組を検討していきたい。
- ・文化については、基本理念で掲げる人と人の絆や自然を大切にする行動様式を育て根付かせていくことが文化につながるものと考えており、どのように根付かせていくのかについては、今後基本計画の中で検討していきたい。

○委員

- ・基本理念で掲げる「人と人」「人と自然」「心の豊かさ」ということが満足度とどのように関連するのかという検討が今後必要ではないか。

○委員

- ・来園者数を目標として前面に出してしまうと、人を呼び込むことが大事となってしまう、本来の目標である『人と人』『人と自然』の関わりを深め、心の豊かさを育む公園」を目指すことが震んでしまうのではないか。
- ・交通アクセスの問題で、日曜に青年の城に行こうとしてもバスがない。竜王のアウトレットパークから希望が丘へ寄ってもらう方法を検討すべきではないか。以前、フライングディスクの関係で竜王町と連携した時でも、ディスクゴルフは設備のある希望が丘ですが、それ以外はドラゴンハットを利用するといったことがあり、竜王町と関係のない施設とされているのではないかと感じた。希望が丘の持つ有用な資源、指導者を活用し、園外での働きかけをしていくことで、周辺市町との関係を密にしていくことが大事ではないか。
- ・公園サポーターや研修団体、芝生ランドの利用者同士のつながりも大事ではないか。

つながりを作ってくれる人、つながりを作る道具があると良い。看板等で一般の利用者に園内の設備・用具の利用の提案をするなどの働きかけをしていくことで、つながりができ、それが文化にも関連してくるのではないか。

○委員

- ・芝生ランドを利用されている方に声をかけニュースポーツの講習会をするなど、家族単位だけではなく、来園者が一緒に取り組むような催しもあっても良いのではないか。矢橋帰帆島にあるおもしろ自転車などがあると、健康づくりにもなり、園内を巡ってみようということになるのではないか。

○事務局

- ・『人と人』『人と自然』の関わりを深め、心の豊かさを育む公園」となっている状態を表す指標として目標を設定しているが、基本理念と来園者数・満足度がどのように関連するのか今後の検討の中で整理していきたい。
- ・竜王町からもアウトレットパークや道の駅からの誘導をしてはどうかという意見をいただいているので、周辺施設との連携を進めていきたい。
- ・希望が丘の機能・設備を知ってもらい、人と人をつなぐ取組を進めていきたい。

○委員

- ・スポーツは多面的な要素を持っており、それをどのように活かすかが大事ではないか。全中駅伝で言うと、これまで10年間開催してきた山口県の地元の運送会社や宿泊業者などからはなぜ止めてしまうのだとの声があるなど、商業的な面からのメリットもある。地元の支えと地元への還元といった視点での戦略というものを考えていくべきではないか。

○事務局

- ・今後、基本計画の中で、各施設をどのように活用していくのかといった具体的な検討をしていくにあたり、市町の意見・要望を幅広く聞いていきたい。

○委員

- ・文化公園としてつくられた当時の意気込みを認識して、これからの新しい文化公園をつくっていかねばならず、それを目標として数字で表すということはしてほしくない。
- ・利用者の居住地のデータから、大津市・近江八幡市・野洲市の利用は多く、高島市などの利用はほとんどないことがわかるが、なぜこのようになるのかしっかり考えていかなければならない。前山委員の意見にもあったが、これまでは良いイベントを実施して園内に来てもらっていたものを、これからはコーディネートという形でもっと外に出て、希望が丘ではこういうことができるということを知ってもらうべきではないか。家族単位で希望が丘を知ってもらい、家族の時間を大切にできる場とすることが文化を育てることになるのではないか。それを指定管理制度の枠組み

を越えて、新しい文化をつくる意気込みが伝わるよう示してほしい。

- ・西エリアよりも自然が多く残っている東エリアの魅力が伝わっていない。巡回のバスを走らせて東に目を向けてもらうなどの取組が必要ではないか。子連れのお母さんや家族に向けて東エリアでどういうことができるのかということ、今後基本計画を作る中で大きく取り上げてほしい。

○事務局

- ・公園と市町・地域をつなぐコーディネートという役割は重要と考えており、これからは園外での働きかけを積極的に進めていきたい。
- ・レクリエーション施設なども含めて、東エリアの魅力を伝える取組を検討していきたい。

○委員

- ・ブルーメの丘にある周遊トレインなど定期的に園内を行き来するようなものがあると、園内の風景を見どころとして提供できるのではないか。
- ・コーディネートは今後重要となってくるので、その取組についてしっかりと検討いただきたい。

○委員

- ・5つの機能の場の一つ一つに特色を持たせて取組をすべきであり、その取組の一つ一つが重なり、それぞれで文化がつけられて、そうした特色のある5つの場が1か所にあるということが希望が丘の特色として位置づいていくのではないか。自然であれば、希望が丘の自然はこういうもので、ここでしか体験できないことはどういうことかを、希望が丘の強み・特色として管理する側が認識する必要があるのではないか。
- ・ハードの取組だけではなく、ソフトをいかに取り組んでいくのかもコーディネートする中で大事となってくる。各主体が主体性を持ち、取組を根付かせていく仕掛けが必要ではないか。自然を体験する場では、管理にとどまらず、いかに教育に活用していくのかまで踏み込むと良いのではないか。スポーツを楽しむ場では、オリンピックや国体を見据えて土台を大きくしていく仕組みが必要であり、オンリーワンとナンバーワンの共生を強調すると良いのではないか。
- ・人が育ち、心が豊かになる公園というのを利用者が意識するような公園づくりが必要だと感じる。

○事務局

- ・5つの機能の場での希望が丘の特色を整理・活用し、根付いていくような取組を検討していきたい。
- ・基本計画の中で、取組で得られる効果や利用者が基本理念を意識するような公園づ

くりについて検討していきたい。

○委員

- ・満足度を 85%から 95%に上げるのは相当頑張らないといけない。委員の意見にもあったようにハード・ソフトの両面から仕掛けをどうするのか考えていかないといけない。進捗状況を毎年評価・フィードバックしながら取組を進めてほしい。

○委員

- ・施設の改修にあたっては、バリアフリーなど高齢者・障害者に対する意識を大事にしてほしい。老若男女、色々な方が来園する中で、気軽に利用でき、安心できる公園づくりを心掛けてほしい。青年の城など、高齢者の方も利用できるということが伝わるようなネーミングというのでも検討していただきたい。

○委員

- ・自然体験活動と野外活動はどのように使い分けているのか。

○事務局

- ・定義を調べて記載させていただく。

○委員

- ・本日の意見は、基本計画の中で検討していかなければならないことであり、それを見越してビジョンの修正をお願いしたい。

○事務局

- ・ビジョン案の修正については、座長および事務局に一任いただくようお願いしたい。